

みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040 第1次実施計画(2027→2031)骨子案について

みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040第1次実施計画(2027→2031)

- みやぎ県立高校将来ビジョンは、2026年度(令和8年度)から2039年度(令和21年度)までを計画期間とする。
- そのうち、第1次実施計画は2027年度(令和9年度)から2031年度(令和13年度)までの5年間とする。

年度 計画	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2033 (R15)	2034 (R16)	2035 (R17)	2036 (R18)	2037 (R19)	2038 (R20)	2039 (R21)
みやぎ県立高校 将来ビジョン	14年間													
実施計画		第1次:5年間					第2次:4年間				第3次:4年間			

第1章 みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040の概要

- 1 基本理念
- 2 基本方針
- 3 各圏域における再構築後の姿

第2章 実施計画の策定

- 1 策定の趣旨
- 2 実施計画の期間

第3章 各圏域における学びの質の向上

- 1 普通科系の学び
 - (1)進学系拠点校
 - (2)普通科の改革の推進
- 2 専門学科系の学び
 - (1)先端技術に関する学び
 - (2)実社会に直結する実践的な学び
 - (3)各専門学科の学び

第3章 各圏域における学びの質の向上

- 3 多様な学び
 - (1)idealスクール
 - (2)定時制・通信制
 - (3)特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応
- 4 小規模校における学び
- 5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第4章 各圏域における高校配置

- 1 各圏域における学びの在り方
- 2 2040年までの組織編制計画

第5章 教育環境の整備

- 1 教職員の支援体制
- 2 生徒の相談・支援体制の構築

第1次実施計画における検討事項

第1章 みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040の概要

- 1 基本理念
- 2 基本方針
- 3 各圏域における再構築後の姿

第2章 実施計画の策定

- 1 策定の趣旨
- 2 実施計画の期間

第3章 各圏域における学びの質の向上

- 1 普通科系の学び
- 2 専門学科系の学び
- 3 多様な学び
- 4 小規模校における学び
- 5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第4章 各圏域における高校配置

- 1 各圏域における学びの在り方
- 2 2040年までの組織編制計画

第5章 教育環境の整備

- 1 教職員の支援体制
- 2 生徒の相談・支援体制の構築

取組検討事項（例）

1 普通科系の学び

- ①進学系拠点校におけるピアグループの形成による効果的な学びの在り方
- ②普通科の改革の推進に向けた地域の関係機関との連携・協働体制の構築や、学校の特色化・魅力化の方向性

2 専門学科系の学び

- ①科学技術高校や基幹校における先端技術等に関する学びや企業、研究施設との連携の方向性
- ②生産性向上など実際の企業活動を視野に入れた、より実践的な学びの内容

3 多様な学び

- ①idealスクールの他地域への展開方法
- ②学習や学校生活に困難を抱える等、生徒の個々の状況に応じた定時制・通信制の在り方
- ③高校と特別支援学校の併置や通級指導など、特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

4 小規模校における学び

- ①デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせる方法

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

- ①習熟度別授業の実施など、多様な教育的ニーズに対応した学習コンテンツの蓄積及び授業の実施方法

1 普通科系の学び

検討の視点

① 進学系拠点校におけるピアグループの形成による効果的な学びの在り方

【想定している取組】

- ピアグループを活用した授業の相互受配信（特色ある取組など教育資源の共有）
- ピアグループ内における文理横断・融合科目の課外講習・合同学習等の実施
- そのための生徒・教員が参集可能なラボスペースの設置

- 授業の相互受配信や課外講習・合同学習等のほか、この仕組みを効果的に活用できる教育活動はあるか。
- 文理横断・STEAM教育の推進に向け、具体的にどのような授業展開や合同の探究活動等が効果的か。
- 自校のみで完結しないこれらの学びの実現に向け、教員に求められる資質能力と効果的な研修とはどのようなものか。

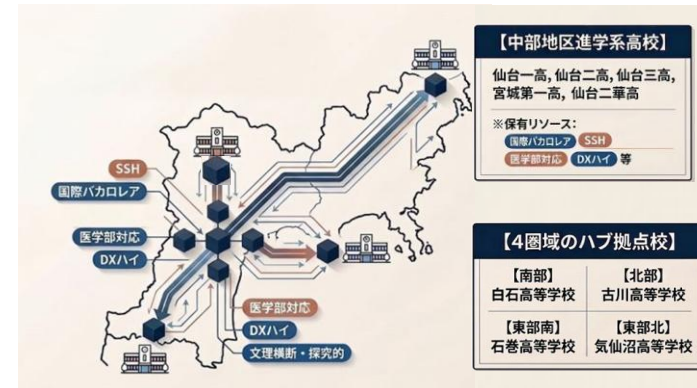
第1次実施計画における検討事項

1 普通科系の学び

① 進学系拠点校におけるピアグループの形成による効果的な学びの在り方(続き)

全県下の進学力向上に向けた、4圏域拠点校と仙台市内ナンバーズスクールとの県立高校連合

- 県内どこに住んでいても、希望する進路実現ができるよう、白石高、古川高、石巻高、気仙沼高の生徒が、仙台第一高、仙台第二高、仙台第三高、宮城第一高、仙台二華高の各校の特色・強みのある授業を受けることができる環境を整備。
- 4拠点校からも発信し、9校で文理横断・融合科目の課外講習、合同学習等の取組を展開。
- 仙台第一高の旧通信制課程教室等を活用し、対象9校の生徒、教員が参集できるラボスペースを設置。
- 進学力向上のため授業を支える予習・復習コンテンツを開発。



■ 主な整備内容

- ・データサイエンスフロア用機器
- ・オンライン会議等用映像配信機器
- ・文理横断・融合(STEAM)探究学習用
データ分析・試作等機器
- ・つまづきを解消するためのオンライン学習
環境の整備



1 普通科系の学び

検討の視点

② 普通科の改革の推進に向けた地域の関係機関との連携・協働体制の構築や、学校の特色化・魅力化の方向性

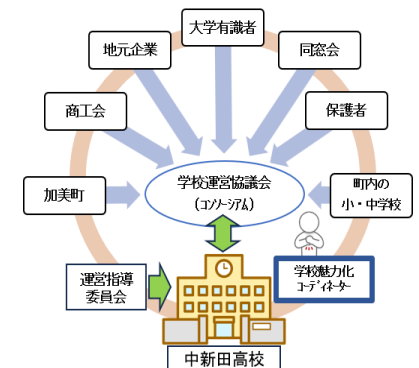
【想定している取組】

- 普通科系高校の特色化・魅力化によるスクール・ミッションの再定義
- 中新田高校をパイロットケースとした他校への横展開

- 地域資源・地域課題の把握や外部人材の発掘・活用には、どのようなアプローチがあるか。
- 連携・協働体制の構築にコーディネーターが担う役割や必要性はどうか。

中新田高校における普通科改革支援事業 <文科省普通科改革支援事業 (R6~7) >

- 全国36校の普通科改革モデル校の1つに選定される。
- 加美町等の地域の関係機関との連携・協働体制の構築
- 学校の特色化・魅力化を図る学校設定教科「地域創造学」の開設
- 学校魅力化コーディネーターが関係機関をつないで連携・協働体制を構築し、「地域創造学」や「総合的な探究の時間」における探究活動をコーディネートする。
- 学校運営協議会が、新しい普通科を支援するコンソーシアムを兼ね、教育活動へ助言と、「地域創造学」の実践に参画する。



(参考資料)普通科改革の意義・背景

- 普通科には高校生の約7割が在籍する一方で、**生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現に課題がある**との指摘もなされており、「普通」の名称から**一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすい**ところ、普通科においても、生徒や地域の実情に応じた**特色・魅力ある教育を実現**する。
- 普通科において特色・魅力ある教育を行うにあたって、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、総合的な探究の時間を軸として、**生徒が社会の持続的発展に寄与するために必要な資質・能力を育成するための多様な分野の学びに接することができるようにする**。



学際領域学科

現代的な諸課題のうち、**SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題**に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

地域社会学科

現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元自治体を中心とする**地域社会が抱える諸課題**に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した**実践的な特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

その他普通科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく**特色・魅力ある学び**に重点的に取り組む学科

2 専門学科系の学び

検討の視点

① 科学技術高校や基幹校における先端技術等に関する学びや企業、研究施設との連携の方向性

【想定している取組】

- 大学・企業等と連携した先端技術に関する学びの充実（農業系・工業系の科学技術高校の設置）
- オンライン等の活用による基幹校における成果の他専門高校への共有

- 大学と連携した先端技術に関する学びの充実に向け、具体的にどのような授業展開や探究活動等が効果的か。
- 高度で専門的な学びを実現するには、企業の研究開発部門との連携が有用だと考えられるが、企業とはどのような連携・協力が可能か。

第1次実施計画における検討事項

2 専門学科系の学び

① 科学技術高校や基幹校における先端技術等に関する学びや企業、研究施設との連携の方向性(続き)

県内企業で活躍する人材育成に向けた、県工業高校のアップデートと県内工業系高校による共同利用

- 生産性向上など実際の企業活動を視野に入れた実践的な内容を取り入れ、最先端の研究開発だけでなく、生産技術、品質保証など企業活動を下支えできる人材の育成を目指す (⇒ 生産安定に寄与)。
- 実際の企業で使われるコンピュータ制御の複合型工作機械、産業用ロボット等を導入し、機械加工技術のみならず、機械制御技術も学ぶなど、学科横断で実社会につながる学びを実践。
- ネットワーク環境を強化し、県内工業系高校からの遠隔操作や企業・大学とのデータ共有も可能に。
- 校外開放スペースを設け、小・中学生をはじめとする地域に開かれたエリアに。

- 主な整備内容
 - ・5軸マシニングセンタ
 - ・ロボットアーム
 - ・独立データサーバー
 - ・データ解析用PC
 - ・VR/AR関係機材

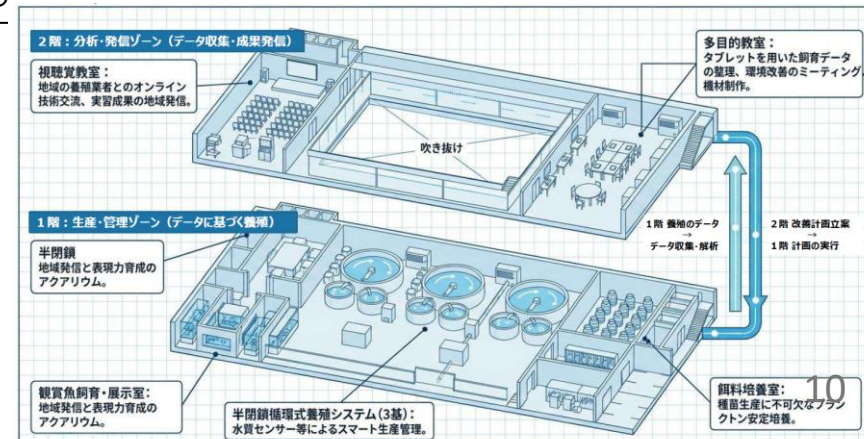


持続可能な漁業に向けた、次世代型「陸上養殖・水産イノベーション教育拠点」の整備

- 半閉鎖循環式陸上養殖施設を整備し、AIやIoTによるデータを活用した水温・水質管理を取り入れることで、持続可能な養殖教育を推進。
- 陸上養殖を通じ、バイオテクノロジー、ICT、水質管理、自動化制御など、先進的な技術を習得。
- 商業などの他学科と連携し、商品開発や流通・販売の視点を取り入れた学習を通じて、水産資源の6次産業化を含む実社会に直結した総合的な学びを展開。



- 主な整備内容
 - ・半閉鎖循環式陸上養殖施設
 - ・水中ドローン
 - ・IoTセンサー



2 専門学科系の学び

検討の視点

② 生産性向上など実際の企業活動を視野に入れた、より実践的な学びの内容

【想定している取組】

- より実社会と結び付いた総合的な力を育む学科横断的な学びの提供
- 地域や専門分野の学びの特性に応じた魅力ある教育環境の整備
- 大崎創成高等学校における複数の専門分野にまたがる学び（6次産業化等）の実践と横展開（特に単位制専門高校である点）

- 実際の企業活動と高校の学びがシームレスに接続するためには、高校段階でどのような知識・技術を身に付けることが望ましいか。
- 地域産業や地元企業をより深く理解するため、授業や探究活動等において、企業とはどのような連携・協力が可能か。

3 多様な学び

検討の視点

① idealスクールの他地域への展開方法

【想定している取組】

- 広瀬ideal高等学校における「個に応じた多様な学び」と「学習者中心の支援」の実践
- idealスクールの取組実績を踏まえた他地域への拡充

- 圏域の状況によっては、1校全てをidealスクールとするのではなく、部分的にidealスクールの要素(幅広い授業時間帯・多様な教科・科目・充実したサポート体制等)を盛り込むことが想定されるが、一つの高校の中に併存する場合、留意点は何か。

(参考) アイデアルスクールについて

1 設置の背景と基本理念

- 生徒の興味・関心、進路希望の多様化
- 様々な背景を抱えた生徒の増加（学校生活や学習に困難を抱える生徒など）

○新たなタイプの学校の基本理念
個に応じた多様な学びと、学習者中心の支援により、
生徒の自律的な学びの実現と、将来の社会的自立に必要な資質・能力の
育成を目指す。

2 新たなタイプの学校の概要

- 設置場所等 宮城広瀬高等学校を新たなタイプの学校に転換し、
令和9年度に開校(予定)
※宮城広瀬高等学校は令和9年度に募集を停止
- 募集定員 200名
- 設置課程等 全日制・普通科・単位制

3 求める生徒像

○次のような、多様な生徒を求めます

大学進学等の進路希望を実現するため、自分のペースで学びたい

集団生活や対人関係に不安を感じているが、自分の適性に合わせて学びたい

興味関心や適性に合わせ自己決定しながら柔軟に学びたい

学習のつまずきの解消のため、基礎基本に戻って学びたい

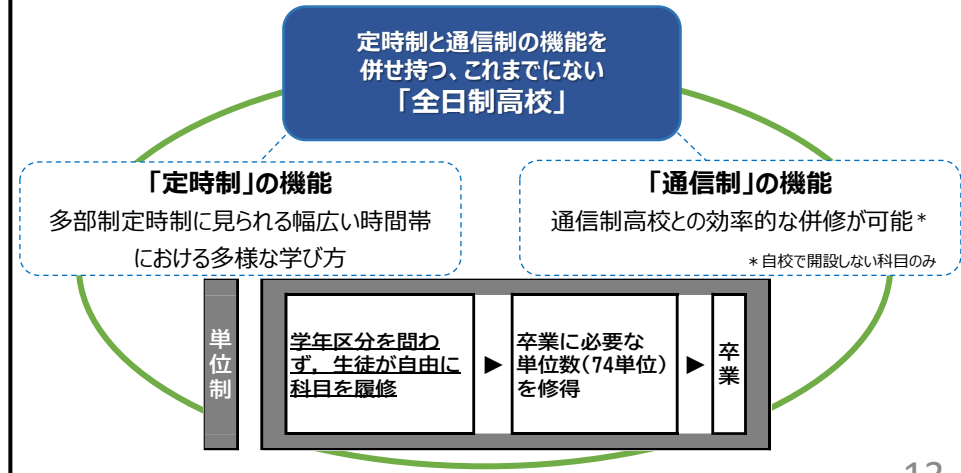
音楽活動やスポーツ等のため自由な時間を持ちながら学びたい

学校に登校していない期間があったが、自分の状況に合わせて学びたい



idealとは「理想、理想的」という意味の英単語ですが、ここでは、各単語の頭文字を合わせた造語としての意味を重ねています。さらには、目指す教育の実現のために、多くのアイデア（idea）、工夫を追求していくという思いが込められています。

4 学校の位置付け



(参考) アイデアスクールについて

5 学校の特徴

I フレキシブルな学び方

- (1) 単位制の導入
- (2) 幅広い授業時間帯の設定
- (3) 通信制高校との併修*
- (4) 資格取得、ボランティア等を単位として認定

II 魅力ある学び

- (1) 探究的な学び
- (2) ICTを活用した学び
- (3) 地域等と連携した学び
- (4) 多様な人材を活用した学び

idealスクール

III 多様な教科・科目

- (1) 多様な進路希望に応じた教科・科目
- (2) 学び直しのための教科・科目
- (3) 習熟度別授業の導入

IV サポート体制の充実

- (1) チューター制の導入
- (2) 多様なスタッフ（スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー、地域人材・NPO等）による支援

* 自校で開設しない科目のみ

6 幅広い授業時間帯

- 1～8校時の幅広い授業時間帯を設定し、生徒自身の生活スタイル、興味・関心等に応じて、主体的な授業選択が可能

1校時	2校時	3校時	4校時	昼休み	5校時	6校時	7校時	8校時
主に選択教科・科目		コアタイム(主に必修教科・科目も設置) LHR及び総合的な探究の時間等も含む					主に選択教科・科目	

	1	2	3	4	5	6	7	8
	多様な教科・科目		必修科目					多様な教科・科目
月	選		必	必	必	必		
火	選	選	必	必	必	必		
水			必	必	必	必	選	
木			必	必	必		選	
金		選	必	必	必	必		
			コアタイム					

7 多様な教科・科目

- 多様な科目の設置に加え、資格取得やボランティア、他の高校での科目履修などの学校外学修等を幅広く単位として認定
- 将来の社会的自立に必要な資質・能力の育成に繋がる学びや多様な人材を活用した学びなど、魅力ある学びを実施

設置する科目の視点

- 国公立大学受験に対応した学び
- 教養を深める学び
- 多様な興味・関心に応じた学び

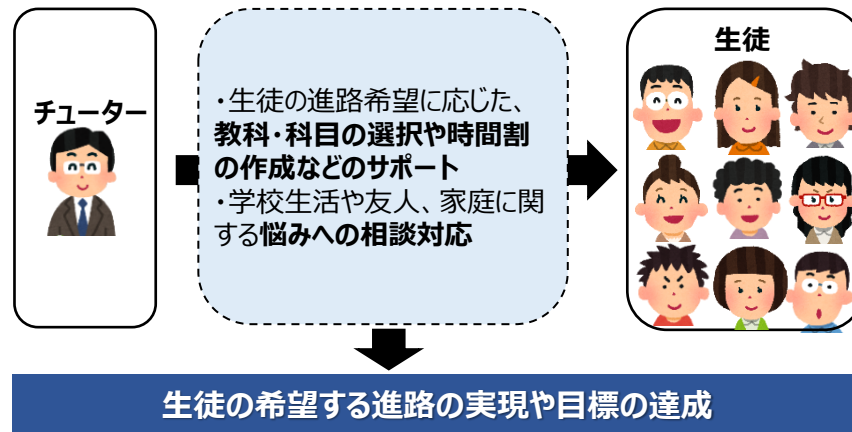
学び直しにも対応

多様な進路の実現

大学進学 専門学校 就職

8 充実したサポート体制

- 従来の「学級」は置かず、チューター制を導入



- 地域人材やNPO等とも協力してさまざまな側面からサポート体制を構築
- ICTを活用した生徒との連絡体制を構築

3 多様な学び

検討の視点

② 学習や学校生活に困難を抱える等、生徒の個々の状況に応じた定時制・通信制の在り方

【想定している取組】

- 定時制高校・昼間部のidealスクールへの転換
- 通信制高校のニーズを踏まえたスクーリング拠点や通信制高校の増設

- 定時制高校・昼間部(1日4時間・修業期間4年)をidealスクール(1日6時間・修業期間3年)に転換することとした場合、生徒の多様な学習スタイルや生活状況等から考えられる課題はどうか。
- 通信制高校の規模感、カバーする範囲をどのように考えるべきか。

(参考)定時制高校のニーズ

夜間定時制高校の生徒のアンケート結果からみた生徒の状況と対応する学校案

生徒の状況	1日4時限の授業	1日6時限の授業も可
①朝の活動が不得意	午後からの 昼間定時制	午後からの 昼間定時制 (三修制有り)
②昼間の活動が不得意、午後の昼間は働きたい、自分のやりたいことをしたい。	夜間定時制の ニーズ (代替不可)	
③午後2時頃からは働きたい、または、自分のやりたいことをしたい。	午前からの 昼間定時制	
④上記①～③以外		idealスクール

3 多様な学び

検討の視点

③ 高校と特別支援学校の併置や通級による指導など、特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

【想定している取組】

- 高校と特別支援学校の併置や連携等による交流・共同学習（インクルーシブ教育）の推進
- 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

- 高校と特別支援学校を併置する際の効果的な連携方法、内容は何か。
- 特別な配慮や支援を必要とする生徒の個別事情に合った対応(通級による指導など)をどのように考えるか。

高校と特別支援学校の併置

- 併置の方向性 ①～③の各段階で併置を検討
 - ①行事や課外活動で交流する。
 - ②行事や課外活動の他、共同学習を行う。
 - ③行事や課外活動、共同学習の他、一緒に授業を受ける

※配置のイメージ

	併置校	行事等 交流	共同 学習	教員 兼務	同じ授業 を受ける	高校の学科等
①	A高等学校 B支援学校高等部	○	×	×	×	普通科
②	C高等学校 D支援学校高等学園	○	○	×	×	普通科
③	新設ideal 新設支援学校高等学園	○	○	○	○	普通科(1～8時限) 単位制高校 ※多様な選択科目を設置

※③は産業界の外部人材の活用も検討

○兵庫県立阪神昆陽高等学校・兵庫県立阪神昆陽特別支援学校の校舎

校舎

高校と同じ敷地にある兵庫県下唯一の特別支援学校です。



(兵庫県立阪神昆陽特別支援学校HPより)

4 小規模校における学び

検討の視点

① デジタル技術を活用した学びと、対面によるリアルな学びを効果的に組み合わせる方法

【想定している取組】

- オンライン授業等の活用による生徒の多様な興味・関心に応える教科・科目の確保
- 地域や他校との連携による対話的・体験的な教育活動の実践

- 実技・実習等を伴う教科・科目の授業をオンラインで実施することも想定した場合、具体的な授業方法など参考となる先進的な取組事例はあるか。

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

検討の視点

① 習熟度別授業の実施など、多様な教育的ニーズに対応した学習コンテンツの蓄積及び授業の実施方法

【想定している取組】

- オンライン教育センターを中心としたオンライン授業と配信する教科・科目の拡充
- 生徒の興味・関心や習熟度等に応じた生徒の自主学習に活用できるコンテンツの作成・蓄積

- オンラインによる授業配信や合同学習等のほか、今後オンラインを活用した取組として実現可能な教育活動はあるか。
- 授業の予習・復習のためのコンテンツのオンデマンド配信など、オンラインを活用した生徒の学びの支援にはどのようなものが考えられるか。

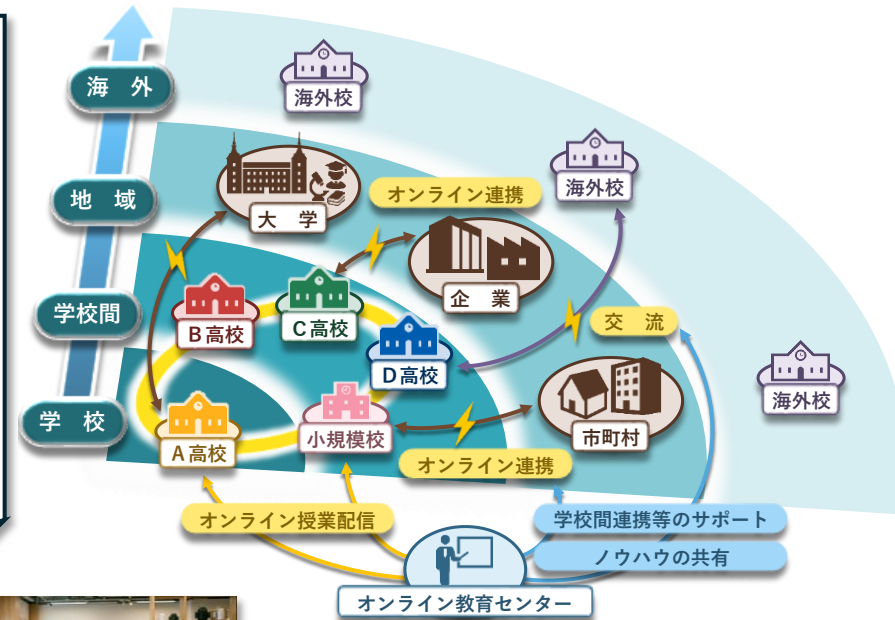
第1次実施計画における検討事項

5 オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

① 習熟度別授業の実施など、多様な教育的ニーズに対応した学習コンテンツの蓄積及び授業の実施方法(続き)

全県立高校のレベルアップに向けた、オンラインをフル活用した教育空間の拡張（オンライン教育センターの設置）

- 小規模校への多様な科目（座学→実技系）配信。
- 習熟度別授業への対応のため学習コンテンツを蓄積し、オンデマンドで展開。
- 全県立高校をネットワーク化した上で、デジタルとリアルの効果的な組み合わせにより、探究活動の相互発表や交流を進め、学びを深めることで、県内のどこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整備。
- 拠点となるオンライン教育センターを仙台第二高校敷地内に設置。大学や企業と連携し、創造性・多様化を取り入れていく。



■ 主な整備内容

【県内各校】電子黒板、受信設備
【オンライン教育センター（各校共有）】
配信用カメラ、PC、マイク・スピーカー、
VR・AR機器、モーションキャプチャ、
ICT計測器、3Dプリンタ、3Dスキャナ等



- 令和8年6月17日 ・令和8年度第1回県立高等学校将来構想審議会
- 令和8年7～9月 ・地区別意見聴取会、市町村等説明会、中学生への意見聴取等
- 令和8年10月下旬
～11月上旬 ・令和8年度第2回県立高等学校将来構想審議会
- 令和8年12月 ・第1次実施計画決定